

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師

前 奏

奏楽 堀口愛子姉妹

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 49:1 天なる喜び

天なる喜び こよなき愛を 携え降れる 我が君イエスよ、  
救いの恵みを あらわに示し、いやしきこの身に 宿らせ給え。 アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去って  
ください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、  
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも  
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び  
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この  
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 37:1 神は我がやぐら

神は我がやぐら わが強き盾、苦しめる時の 近き助けぞ。  
おのが力、おのが知恵を 頼みとせる 陰府の長も など恐るべき。アーメン

共同の祈 禱 祈禱書20 救済史祈禱① 命の契約・原福音

天地のすべてのものを創造された、父・子・聖霊なる神さま、あなたは人間を神のかたちに創造し、すべてよきものを与え、地にあるものを支配するように命じ、命の契約を結んでくださいま

した。この祝福と光栄を心から感謝し、御名をあがめます。

しかし、わたしたち人間は、あなたの戒めに背いて墮落し、罪と死に支配される者となりました。それにもかかわらず、あなたはわたしたちを愛し、探し求め、救い主がサタンのかしらを打ち砕くと、の喜ばしい約束を与えてくださいました。この約束が、キリスト・イエスの日に実現したことを、心から感謝します。

(創世記1～3、黙示録22、ローマ16、「聖書」一)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 南アフリカ・セチャベロホーム 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 フィリピの信徒への手紙1章12-18節 (新協同訳聖書、新約聖書361頁)

テモテへの手紙第二章8-10節 (新共同訳聖書、新訳聖書392頁)

説 教・祈祷 「鎖を破る福音」 L. スパーリンク宣教師

\* 賛 美 歌 37：4 (神は我がやぐら) 暗きの力の

暗きの力の よし防ぐとも、主のみ言葉こそ 進みに進め。

わが命も わが宝も 取らば取りね、神の国は なお我にあり。 アーメン

\* 主 の 祈 り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 献身と派遣の歌 54：1 み神のことばを

みかみのことばをかざしてすすまん、さからうあくまは てだてをつくし、

いかにたけく せめおどすとも。 アーメン。

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 雨宮信長老 (司会・受付 次週：古澤兵庫長老)

本日 受付 1階：那珂信之・星野房子執事 2階：藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音：  
番場駿也

次週 受付 1階：佐藤紀子・加藤良明執事 2階：若月学執事 / ZOOMホスト・録音：  
大日南悠

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

中心的主張点：主イエスの民は、いろいろな困難や迫害さえがあっても、神様の救いのみ言葉（福音）によってこれらに対処して、神の御国を来たらせ続ける。

聖書朗読 フィリピの信徒への手紙1章12-18節（新協同訳聖書、新約聖書361頁）

兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。キリストを宣べ伝えるのに、ねたみと争いの念にかられてする者もいれば、善意でする者もいます。一方は、わたしが福音を弁明するために捕らわれているのを知って、愛の動機からそうするのですが、他方は、自分の利益を求めて、獄中のわたしをいっそう苦しめようという不純な動機からキリストを告げ知らせしているのです。だが、それがなんであろう。口実であれ、真実であれ、とにかく、キリストが告げ知らされているのですから、わたしはそれを喜んでいきます。これからも喜びます。

聖書朗読 テモテへの手紙第二2章8-10節（新共同訳聖書、新訳聖書392頁）

イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。だから、わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。

（以上は神様のみ言葉です。主に感謝します。）

序説：「御国が来ますように」と、祈る必要がない時がありました。なぜかというと、新しく創造された世界は全く平和で、造り主の御心に反する現象がなく、神の完全な支配が実現していたからです。創世記の2章が短い記事ですが、これを語っています。「極めてよかった」とご自身の創造のわざを評価して、いろいろな意味で安息の時、シャロームの時が現れます。まさに神の国が実現しているわけです。

1、神様の支配を妨げることが絶えないが、主権者の救いの計画が成り立つ。

イ、エデンの園で悪が伝染病のように流行り始める。

ロ、被造物が無に服するようになり、悪がふくらんで行く。

ハ、あらゆる痛み、苦しみ、死でさえ、神に背くことに由来する。

ニ、しかし、神様が救いの計画を予め立てておられ、救いの約束を繰り返して語る。

ホ、救いがもたらせる究極的な目標がある。

でも、次の3章になると、悪魔が現れ、人を罪の支配下に陥れるように働きかけてしまいます。そのことによって、神様の支配を妨げることが絶えない状態になり、神と人、人と自然界、人同士の平和な関係が消えてしまいます。エデンの園から始まって、悪が伝染病のようにアッという間に流行り始めます。夫と妻がお互いを断罪し、兄が弟を殺害し、あれとあらゆる罪深い行動が現れます。パウロの言葉を借りてみると、被造物が無に服する状態になったと言います。そこで、聖書の教えによりますと、あらゆる痛み、苦しみ、死でさえ、ここで語られている神に背くことに由来しています。私たちはこれらを見たり味わったりするときに、「どうして？」とうめき声を出すこともあります。結局、私たちの始祖が、私たち自身も主の御心に背いているから、あらゆる不幸を味わうようになっています。厳しい言葉ですが、これは私たちが味わっている現実です。

しかし、神様が救いの計画を予め立てておられ、救いの約束を繰り返して語ってくださいます。罪に墮落した女の子孫が罪に陥れた悪魔の頭を踏み砕くことになっていると主が墮落の事件の直後に教えて

くださいます。大洪水の時に救いの技をノアとその家族に示してください。アブラハムに 地上のすべての氏族にアブラハムの子孫によって救いと祝福をもたらすとおっしゃいます。ダビデ王に、その子孫を通して永遠の御国を立ててくださると約束します。主権者の救いの計画が必ず成り立ち、究極的な目標に着々と前進します。その究極的な目標は何でしょうか。新約聖書がこれを語ります。フィリピの信徒への手紙2章10-11節：「こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです」。また、エフェソの信徒への手紙1章11-12節：「キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです」。「御国が来ますように」とお祈りするとき、これを目指して、その実現を願い求めるわけです。

2、主の民は歴史にわたって味わって来た困難がいろいろある。

イ、終わりの時が来るまで、主の民は御国を待ち望む。

ロ、御国に反する物事がいろいろ現れる。

ハ、日本においても、根強い抵抗、異教、異端、不健全な思想、迫害があつてある。

ニ、神様はその中でご自身の民を支え、守り、導き続ける。

しかし、それがとうとう実現するまでは、主の民は歴史にわたって味わって来た困難がいろいろあります。終わりの時が来るまで、主の民は御国を待ち望みます。この世がついに終わるときに現れる、正義と慈しみに満ちる神の国、新しい天地創造を夢見ています。旧約聖書の預言者も、黙示録、例えば、21章と22章も語っています。けれども、今が困難の多い罪の世です。神様の御国に反する悪の勢力がなお不幸をもたらし続けている時です。聖書が語る歴史にも、私たちが経験する歴史にもあることを否定できません。今も恐ろしい病がはやり続けているし、戦争も起こり、その様子を日々伺っています。昔の詩人と一緒に私たちも声を張り上げて、「主よ、いつまでですか」と叫びます。

日本においても、御国に対する根強い抵抗、創造主でないものを礼拝する異教、聖書の教えを曲げる異端、唯物論一唯神論一無神論のような不健全な思想、また迫害が昔にも今にもあるのです。日本に福音を伝えること、救いが広まること、神の御国が進展していくことがなかなか難しい国であることはいままでもないかもしれません。けれども、この事実の背後にある悪しきもの働きや激しい霊的な戦いが起こっていることをどれだけ意識しているのでしょうか。昔の国や、遠いところに起こっていることを認めるかもしれませんが、私たちの生活しているここにも、とんでもない偶像崇拝があり、これを懐かしがりながら紹介するテレビ番組や、支配者からスポーツ選手までの神社参拝と先祖に祈りを捧げる姿は後を絶ちません。また、不品行をよしとする、あるいは押し付ける行動がすごい勢いで増えています。これらは主の民にとって心を傷めるものばかりです。これらが当たり前のように思っている一般の人たちはなお創造主から遠ざかり、罪を悔い改めて イエス・キリストにより頼むことを邪魔しています。

こうして、いろいろな現象が今日もある中で、困ったり焦ったりするかもしれません。けれども、神様はその中でご自身の民を支え、守り、導き続けておられます。参っても当然と思われる状況ですが、地味な形で、時々驚くほどの勢いで、主が教会を建ててくださっています。

3、使徒パウロの例から学ぼう。

イ、ご自身はパリサイ派に属し、イエス様とその弟子たちを激しく迫害する者だった。

ロ、神様はその殺意を用いて、イエス様の贖罪の生け贄となるように救いの技を実現する。

ハ、その後、パウロが迫害を受ける側に移って、投獄の中から福音宣教を継続する。

ニ、神様のみ言葉の力をなくすことがありえない。福音には鎖を破る力がある。

ホ、「殉教者の血は教会の（生み出す、育てる）種である。」

今日はこれらのことをめぐって、特に使徒パウロの例から学びましょう。ご存知のように、ご自身は当時のユダヤ教で最も正統的であると自慢していたパリサイ派に属し、イエス様とその弟子たちを激

しく迫害する者でした。彼も仲間もイエス様に対して殺意に燃えて、結局、イエスを十字架刑に定めてしまう人たちでした。預言者の書にそうなることになっていたにもかかわらず、自分たちのそういった悪質な行為によって、神様はその殺意を用いて、イエス様の贖罪の生け贄となるように救いの技を実現するのです。イエス様の十字架の死は私たちの身代わりとして、私たちの罪を償い、代わりとなって、私たちの受けるべきだった神の激しい怒りと罪を裁く死刑を受けるのです。全く正しいお方、その義の功績を信じる私たちのものとして与え、私たちの罪の一切の責任を引き受けてくださいました。そして、定まった通り、三日目に復活なさいます。世界宣教の任命を受けたイエス様の弟子たちに対して、パウロたちが激しく迫害し続けます。

けれども、パウロは生きておられる復活の主に出会い、自分の過ちと罪を理解し、悔い改めます。そして、迫害していた以上の勢いでイエスが主、救い主であることを今度 宣べ伝えるようになります。そのおかげでパウロは 今度は前の仲間からとんでもない迫害を受けるようになります。何回か手鎖をかけられ、投獄されることもあります。今日読んでおいた二つの手紙は実は投獄中のパウロの書簡です。短く、両方の内容を確認しましょう。

フィリピの教会に宛てた手紙では、今、投獄されている自分に迷惑をかけようとする連中がいることを指摘します。パウロはイエス様のことを告げ知らせることで逮捕されていました。パウロを敵視するある人は、「私はパウロに促されてナザレのイエスの話をするように求められた」と言い、違法行為のようにとられることをパウロの責任にして、迷惑となることを狙っています。パウロは逆に、イエス様の話を言い広めているから喜んでいることを記すのです。自分が不自由ではあっても、福音の、救いのメッセージがなお広まっているからです。反対者の行動に逆効果が現れているわけですね。

テモテの第二の手紙は、使徒パウロの人生の終わりが近づいていると本人が覚悟している時に若い牧師への助言として記しています。自分では自由に伝道の使命に従事することが許されず、まるで手鎖がかけられているような思いがあると書きます。けれども、神様のみ言葉にはそんなものでストップをかけられることがないと、使徒が喜んでいます。テモテたちをこうして励ますのです。自由に出回って救いの福音の説教などができないパウロは、今度は文書によってその勤めに従事していることが言えます。神様のみ言葉の力をなくすことがありえませんが、福音には鎖を破る力があります。預言者イザヤはこのことについて55章11節で次のように言っています。「わたしの口から出るわたしの言葉は／むなくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ／わたしが与えた使命を必ず果たす。」

パウロはとうとう皇帝ネロによって死刑に定まり殺されます。でも彼の働きによって今日の私たちにも福音をなお聞かされています。「殉教者の血は教会の（生み出す、育てる、発展させる）種である。」という有名な指摘があります。世世にわたってその通りになっています。神様の御心はどんなに激しい反対の悪の勢力があっても、なお進みに進めるのです。

#### 4、大震災やパンデミックを味わっても、御国が前進する。

イ、これらのような現象は御国の前進にどんな影響を及ぼしてきているか。

ロ、困難や苦しみの中で、犠牲を払って戦い続けることによって豊かな実りが現にある。

ハ、一切の権能を授かっておられる主が共におられるならば...

ニ、新しい現実新しい対策。ただいま経験している主の不思議な備えがある。

日本には、福音宣教にブレーキをかけるような現象が幾つかあります。11年前の東日本大震災が一つ。また、コロナウィルスのパンデミックがもう一つです。他にはないわけではありませんが、まずこれらを考えてみましょう。これらのような現象は御国の前進にどんな影響を及ぼしてきているのでしょうか。大震災が襲ってきた時、計り知れない大きな損害がもたらされ、全世界から支援の手が現れました。もちろん、日本国内にも多くのボランティア活動が現れ、被災者に寄り添って、必要をできるだけカバーするような、本当に美しい姿が現れました。その中で、大胆に言いますが、最も精力的で、長引き、効果的で、今も続いている支援活動がキリストの民からのものです。日本国の全人口の1%を満たさないクリスチャンの被災者支援は本当にお見事でした。不幸な目にあった東日本、東北の方々に説教する機会としないで、とりあえず、良きサマリヤ人のように、荷を共に担い、生活が成り立つように、大きな献金と労働力を提供しました。キリストに属さない99%はこれを認めて驚いています。なんだ

ろう、このクリスタンの連中は？と。反キリストの抵抗が最も強いと言われてきた東北の方々も、「あなたがたの神について知りたい、教えてください」と言い出す人々が結構多くいます。

パンデミックの現象は少し違います。教会で集まることを控えて、三密を守り、感染を抑えようとする教会が多くあります。周りの方々はこれに気づいているでしょうか。でもそれよりも、必要に迫った諸教会は新しい方法で、文書やインターネットによる配信を使って、慰めの言葉と音楽、礼拝式の模様、説教を一生懸命に伝えて、励んでいることが事実です。大震災でも、パンデミックでも、神のみ言葉、福音に鎖を掛けることがありえません。一切の権能を授かっておられる主が共におられるならば、御国の前進を抑えることにできる悪魔はありません。それぞれのチャレンジに、新しい現実に、新しい対策を講じて、「御国が来ますように」と祈りながら、主の大宣教命令によった与えられた任務を果たします。

事実、今のウィルスに対処するための不思議な備えがあります。主から備わっているインターネットの技術です。メディアミニストリーが常に利用してきた部分もありますが、これに爆発的な成長があり、いろいろな障害を突破して、かつてないほどの人々に福音を届けています。確かに愛餐会や顔を合わせての学び会が今しばらくの間、制限があります。寂しいです。けれども、諸教会に小さなアンケートを出してわかったことですが、この不自由の中で新しい来会者、洗礼を志願する方、教会に加わる新人が前よりも与えられていることを知りました。私は思いますが、このいわゆる試練によって与えられた新しい技術とノウハウを将来、どれだけ力強く用いられるだろうか、と。確かに多くの蓄積ができました。新型ウィルスに対して、新型の奉仕が見えています。このように、全能者がご自身の目的を見事に果たそうとしておられると信じます。

決論：主がご自身の民を集め続けます。世の終わりまで御国を実現する計画に変わりがありません。その救いのみ言葉に力があり、一切の反対や障害を乗り越えるものです。今こそが決意を新たにして、福音の前進に献身する時です。思い切って励み続けましょう。主イエスの民は、いろいろな困難や迫害さえがあっても、神様の救いのみ言葉（福音）によってこれらに対処して、神の御国を来たらせ続けましょう。福音は鎖を必ず破ります。

祈祷：天にいます私たちの父なる神様、「御国を来たせたまえ。あなたがすべてのすべてとなられる御国の完成に至るまで、私たちがいよいよあなたにお従いできますように、あなたの御言葉と御霊によって 私たちを治めてください。あなたの教会を保ち進展させてください。あなたに逆らい立つ悪魔の業やあらゆる力、あなたの聖なる御言葉に反して考え出されるすべての邪悪な企てを滅ぼしてください。」（HC123より）私たちのうちに働く御言葉と御霊に私たちが救う力があると信じて、あなたの御心を行えるようにできることを今日 確認しました。どうかその通り、罪と悪にとらわれているすべての人に、せめて日本の方々に「イエス・キリストは主である」と告白できるまで、福音の宣教に従事させてください。主イエスの御名によって。アーメン。